

# 營業報告

2010年4月1日～2010年9月30日

第52期中間報告書

## 目次

- 01 株主の皆様へ
- 02 トピックス
- 03 当第2四半期の業績について
- 07 当第2四半期の概況
- 09 株式に関する事項
- 10 会社概要

## 株主の皆様へ

message

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第52期第2四半期(2010年4月1日～2010年9月30日)における連結決算の概要をご報告申し上げます。

当期のわが国の経済環境は、新興国市場での需要拡大、景気回復に伴う内需拡大の兆しはあったものの、急激な円高の進行や株式市場の低迷、欧米景気の先行き懸念など、依然として不透明な状況で推移いたしました。

一方、当社グループの関与が大きいエレクトロニクス業界におきましては、ここにきての在庫水準上昇等による若干の調整措置も見え隠れしておりますが、民生品の継続的な需要拡大が見込まれるなど、経済環境全体の中においては比較的市況の上向き感が強い業界であると言えます。

このような経営環境のもと、当社グループはお客様よりの信頼を更に高めるため、収益力の更なる向上を実現するため、品質の確保、コスト削減、及び高付加価値製品の開発、その拡販活動に引き続き全力で取り組んでおります。

また、販売提携、技術提携、海外戦略強化に向けたパートナー企業との協業に注力し、新たなビジネス展開を現実的なものにしつつあると考えております。次の大きなステップに飛躍するため、当社経営環境も大きな転換を必然的なものとして受け止め、グループ一丸となつての新たな成長のための投資を更に積極的に行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

嶋村 清



## 第52期第2四半期 トピックス

当第2四半期は、中期経営計画に基づき、「選択と集中」による積極的な経営資源の投入で、差別化された製品開発と、効果的なコラボレーションを実現することができました。事業の核となる「組込み製品」では高速アナログ／デジタル入力ボードの製品シリーズ化、「画像処理製品」では次世代インターフェースであるCoaxPress、PoCL-Liteの製品企画、「通信分野」ではシリーズ最高速である転送速度20Gbps仕様の製品化、コア技術ではPCI ExpressブリッジのIP化、を進めてまいりました。

また、リモート監視製品においても話題のクラウドコンピューティングへの対応、データセンターの「グリーンIT化」への対応、スマートグリッド電力制御装置など、次期ビジネスを睨んだ開発も計画通りに進行しております。

新しい分野への取組みとして、太陽電池・二次電池、電力・鉄道・船舶・車両、バイオ・薬剤・食品業界への積極的な提案営業による開発案件の増加、また、東アジア諸国への戦略製品の市場展開が実を結びつつあります。

### 用語解説

**【CoaxPress】** Adimec 社と EqcoLogic 社が開発したマシンビジョン分野の新しいデジタル・インターフェース。一本または複数本の同軸ケーブルで高速画像・データ転送を画期的に飛躍させるテクノロジーを言う。

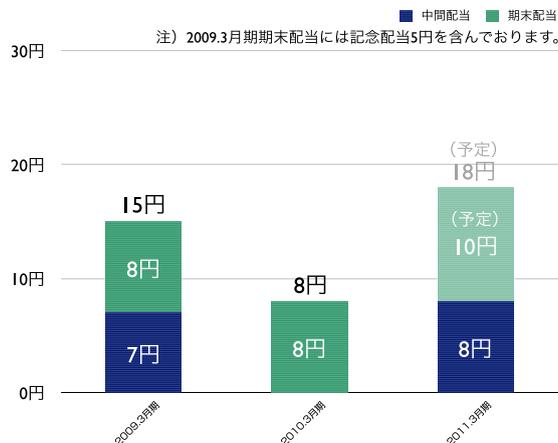
**【PoCL-Lite】** 高速性で広く採用されているマシンビジョン分野のカメラ規格(CameraLink)に電源供給機能を追加して、デジタルカメラとして一本のケーブル接続を実現した規格を言う。

**【クラウドコンピューティング】** ユーザーがコンピュータを自分自身で保有・管理していたのに対し、ユーザーがインターネットを介してサービスを受け、サービス利用料金を払う総合環境を言う。

## 第52期 中間配当の実施について

当社は、将来の企業価値向上に向けた事業投資に伴う中長期的な資金需要や財務状況の見通しなどを総合的に勘案し、連結配当性向を30%に高めるべく配当性向の向上を目指して株主の皆様への成果配分を行っております。

当期の配当金につきましては、このような基本方針のもと、既に9月14日に業績及び配当予想の上方修正発表をおこないましたとおり第2四半期末配当を1株当たり8円とさせていただきます。なお期末配当は1株当たり10円とし、通期配当金は18円(前期実績8円)を予定しております。



**【グリーンIT】** 地球環境に配慮したIT製品やIT基盤のことを言う。IT機器の高密度化によってデータセンターやマシンルームの消費電力量・廃熱量が増加し続けていることに対応した各種対策のこと。

**【スマートグリッド】** 電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化できる送電網。従来の送電網は、発電所から一方的に電力を送り出す方式だが、需要の容量設定のムダ、送電網自体のネックを回避させることが目的の次世代送電網を言う。

## 当第2四半期の業績について（連結）

当社グループに関連深い半導体製造装置業界におきましては、前期後半から各種デジタル機器の需要が回復し、大手半導体メーカーの大型投資が再開されるなど、半導体製造装置市場の需要は、昨年に比べ大幅な回復を持続しております。

このような経営環境のもと、当社グループは新規分野の顧客開拓や新製品投入を目指し、顧客の信頼を得る品質の確保とともに、コスト削減を含めた生産性の向上に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,464百万円（前年同四半期比102.0%増）、営業利益は269百万円（前年同四半期は312百万円の損失）、経常利益は307百万円（前年同四半期は232百万円の損失）、四半期純利益は216百万円（前年同四半期は91百万円の損失）となりました。

### 1 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費785百万円のうち今後の製品展開のための研究開発及び広告宣伝の費用が308百万円含まれております。

### 2 特別損益

保有しております投資有価証券の一部を売却したことに伴い、51百万円の特別利益を計上しております。

### 3 流動資産

現金及び預金が131百万円増加、業績の回復を背景に受取手形及び売掛金が219百万円増加、商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品これらのたな卸資産が194百万円増加などした結果、559百万円増加し、6,936百万円となりました。

## 損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科目             | 前期                       | 当期                       |
|----------------|--------------------------|--------------------------|
|                | 2009年4月1日～<br>2009年9月30日 | 2010年4月1日～<br>2010年9月30日 |
| 売上高            | 1,715                    | 3,464                    |
| 売上原価           | 1,340                    | 2,409                    |
| 売上総利益          | 375                      | 1,055                    |
| 1 ← 販売費及び一般管理費 | 687                      | 785                      |
| 営業損益           | △312                     | 269                      |
| 営業外損益          | 80                       | 37                       |
| 経常損益           | △232                     | 307                      |
| 2 ← 特別損益       | 68                       | 52                       |
| 税金等調整前四半期純損益   | △163                     | 359                      |
| 法人税等           | △68                      | 135                      |
| 少数株主損益         | △3                       | 8                        |
| 四半期純損益         | △91                      | 216                      |

### 4 固定資産

主に減価償却により有形固定資産、無形固定資産がそれぞれ34百万円、8百万円減少し、また、投資その他の資産が投資有価証券の時価変動等の影響により820百万円減少した結果、合計では863百万円減少し3,584百万円となりました。

## 貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

| 科目              | 当期           | 前期年度末        |
|-----------------|--------------|--------------|
|                 | 2010年9月30日現在 | 2010年3月31日現在 |
| ■資産の部           |              |              |
| <b>3</b> ← 流動資産 | 6,936        | 6,377        |
| 現金及び預金          | 3,576        | 3,444        |
| 受取手形及び売掛金       | 1,393        | 1,174        |
| 商品及び製品          | 261          | 283          |
| 仕掛品             | 335          | 292          |
| 原材料及び貯蔵品        | 845          | 671          |
| その他             | 523          | 507          |
| <b>4</b> ← 固定資産 | 3,584        | 4,447        |
| 有形固定資産          | 2,321        | 2,355        |
| 無形固定資産          | 55           | 63           |
| 投資その他の資産        | 1,207        | 2,028        |
| 投資有価証券          | 1,143        | 1,963        |
| その他             | 64           | 65           |
| 資産合計            | 10,520       | 10,824       |

**5** 流動負債

原材料等の購入増加に伴い、支払手形及び買掛金が149百万円増加し、その他の内、未払法人税等、賞与引当金などが増加した結果、合計で351百万円増加し、1,243百万円となりました。

(単位：百万円)

| 科目               | 当期           | 前期年度末        |
|------------------|--------------|--------------|
|                  | 2010年9月30日現在 | 2010年3月31日現在 |
| ■負債の部            |              |              |
| <b>5</b> ← 流動負債  | 1,243        | 892          |
| 支払手形及び買掛金        | 849          | 699          |
| その他              | 392          | 191          |
| <b>6</b> ← 固定負債  | 377          | 708          |
| 負債合計             | 1,621        | 1,600        |
| ■純資産の部           |              |              |
| 株主資本             | 7,877        | 7,720        |
| 資本金              | 2,354        | 2,354        |
| 資本剰余金            | 2,459        | 2,459        |
| 利益剰余金            | 3,341        | 3,184        |
| 自己株式             | △ 277        | △ 277        |
| 評価・換算差額等         | 375          | 863          |
| 新株予約権            | 7            | 5            |
| 少数株主持分           | 638          | 634          |
| <b>7</b> ← 純資産合計 | 8,899        | 9,224        |
| 負債純資産合計          | 10,520       | 10,824       |

**6** 固定負債

主に繰延税金負債の減少により、332百万円減少した結果、377百万円となりました。

**7** 純資産合計

主に利益剰余金が157百万円増加、その他有価証券評価差額金が487百万円減少したことなどにより、8,899百万円となりました。

## 当第2四半期の業績について（連結）

### キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科目                        | 前期                       | 当期                       |
|---------------------------|--------------------------|--------------------------|
|                           | 2009年4月1日～<br>2009年9月30日 | 2010年4月1日～<br>2010年9月30日 |
| 8 ← 営業活動による<br>キャッシュ・フロー  | 289                      | 174                      |
| 9 ← 投資活動による<br>キャッシュ・フロー  | 56                       | △ 80                     |
| 10 ← 財務活動による<br>キャッシュ・フロー | △ 167                    | △ 62                     |
| 現金及び現金同等物の<br>増減額         | 178                      | 31                       |
| 現金及び現金同等物の<br>期首残高        | 2,659                    | 2,755                    |
| 現金及び現金同等物の<br>四半期末残高      | 2,837                    | 2,786                    |

#### 8 営業活動によるキャッシュ・フロー

174百万円の増加（前年同四半期は289百万円の増加）となりました。主に、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上、仕入債務及び賞与引当金の増加等の増加要因が、売上債権、たな卸資産及び未収入金の増加等の減少要因を上回ったことによる増加となります。

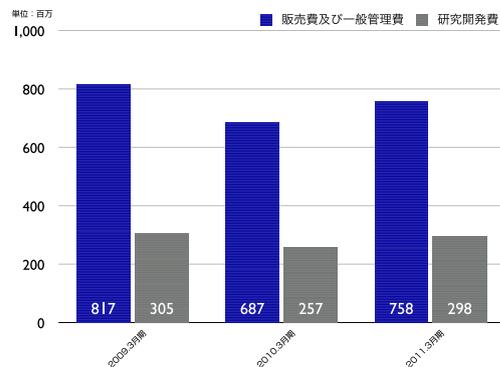
#### 9 投資活動によるキャッシュ・フロー

80百万円の減少（前年同四半期は56百万円の増加）となりました。主に、定期預金の払戻、投資有価証券の売却による収入等といった増加要因を、定期預金の預入、有形固定資産の取得等といった減少要因が上回ったことによる減少となります。

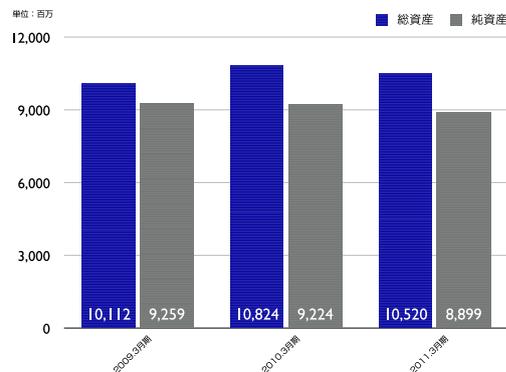
#### 10 財務活動によるキャッシュ・フロー

62百万円の減少（前年同四半期は167百万円の減少）となりました。主に、配当金の支払等の減少要因によるものです。

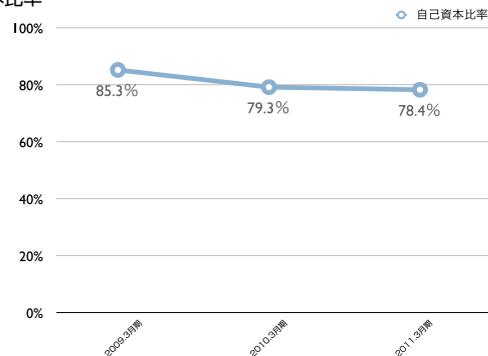
### ■販売費及び一般管理費 / 研究開発費



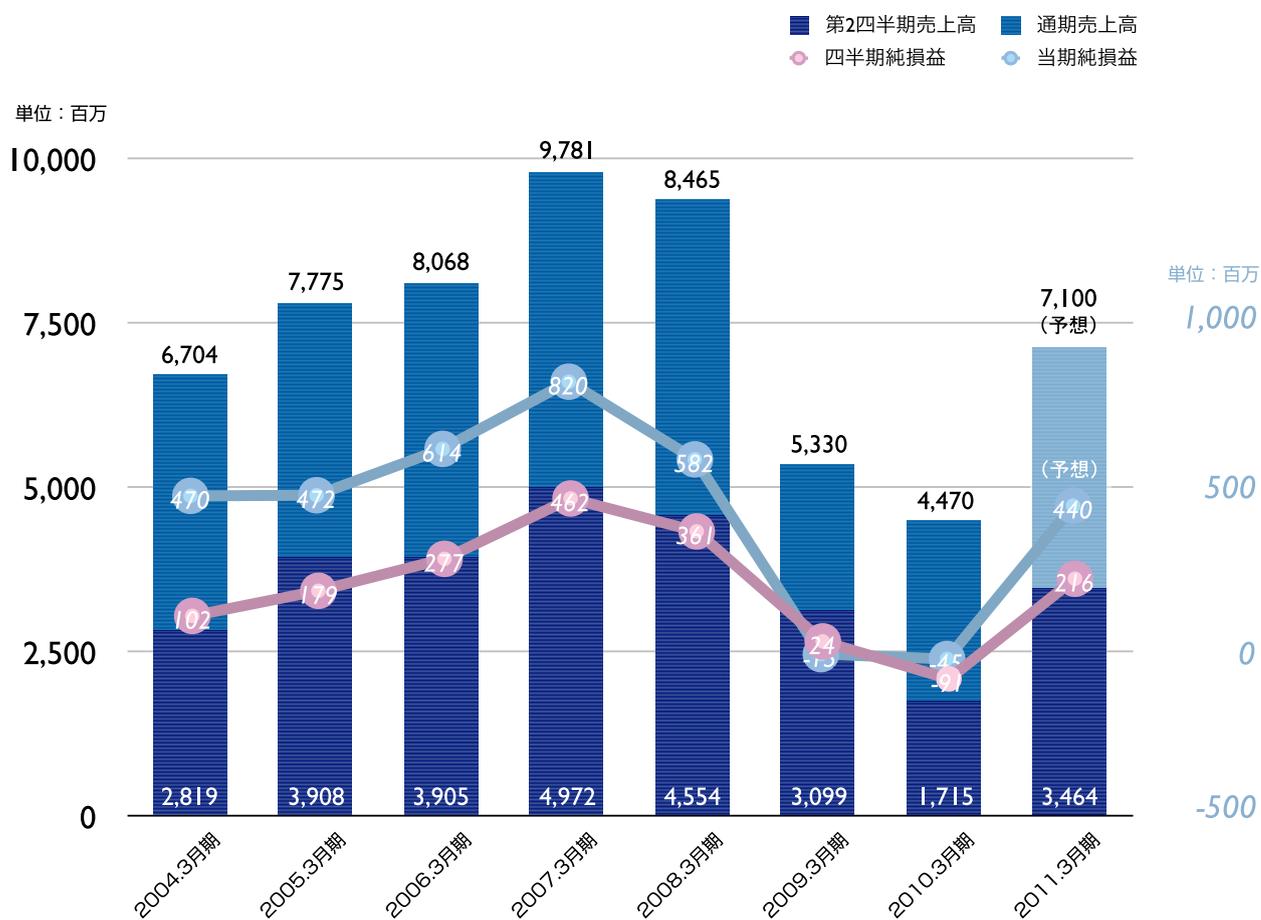
### ■総資産 / 純資産



### ■自己資本比率



## ■売上高 / 純損益



## 当第2四半期の概況

当社グループでは、事業内容を受託製品と自社製品の2つの報告セグメントに分けております。

### 1. 受託製品

当該セグメントは、半導体製造装置関連、産業用制御機器及び計測機器の開発・製造・販売を行っております。半導体製造装置関連の特に前工程の大幅な受注拡大により売上高は2,473百万円(前年同四半期比118.1%増)セグメント営業利益は344百万円となりました。

#### ■ 1)半導体製造装置関連

半導体製造装置の制御部を提供しております。半導体価格の回復、半導体メーカーの設備稼働率の改善により大手半導体メーカーの設備投資が再開され、さらに受注が増大したため、売上高は増加し、1,721百万円(前年同四半期比223.4%増)となりました。

#### ■ 2)産業用制御機器

各種の産業用装置、分析機器等の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。本年2月よりFA全般において受注に改善の兆しが見られ、本格的な回復に至らないものの売上高は増加し、446百万円(前年同四半期比25.6%増)となりました。

#### ■ 3)計測機器

各種計測機器のコントローラ、通信機器の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。主力の電力関連機器全般の回復基調に加え、工業用計測機器の回復により、売上高は増加し、305百万円(前年同四半期比24.0%増)となりました。

### 2. 自社製品

当該セグメントは、組み込みモジュール、画像処理モジュール及び計測通信機器の開発・製造・販売並びにこれらに付属する周辺機器及びソフトウェア等の自社製品関連商品の販売を行っております。組み込みモジュール及び画像処理モジュールの受注拡大により売上高は990百万円(前年同四半期比70.5%増)セグメント営業利益は155百万円となりました。

#### ■ 1)組み込みモジュール

半導体製造装置、FA全般、電力・通信関連向けに提供しております。FA全般の需要の急回復に加え、半導体製造装置関連の好転により、売上高は大幅に増加し、370百万円(前年同四半期比150.1%増)となりました。

#### ■ 2)画像処理モジュール

FA全般、各種検査装置、液晶関連機器に提供しております。売上比率が高い液晶関連機器の設備投資の回復、FA全般が回復したことに加え、新分野での新製品の販売が貢献したことにより売上高は大幅に増加し、287百万円(前年同四半期比104.5%増)となりました。



CameraLink I/F対応  
画像入力ボード APX-3318  
高速カメラに対応した画像入力ボード。拡張ユニットによるFPGA画像処理に対応している。

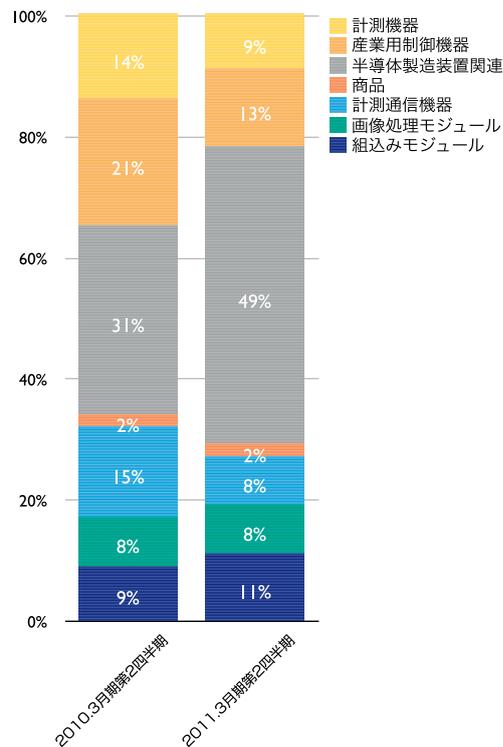
### 3) 計測通信機器

超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL (ギガチャンネル)」シリーズ、FAXサーバ・コールセンター向けCTI (Computer Telephony Integration) 及びリモート監視機器を提供しております。半導体製造装置業界及びFA全般は回復が進み、売上高は僅かながら増加し、261百万円(前年同四半期比3.7%増)となりました。

### 4) 自社製品関連商品

自社製品の販売促進とシステム販売による高付加価値を図るため、ソフトウェア及び付属の周辺機器を提供しております。自社製品全般が回復に転じたことにより、売上高は増加し、70百万円(前年同四半期比78.5%増)となりました。

■ 第2四半期売上構成比率 (昨年度との比較)



## 第52期上期に出展したおもな展示会

第13回 組み込みシステム開発技術展  
2010年5月12日～14日(東京ビッグサイト)

第2回グリーンIT expo展  
2010年5月12日～14日(東京ビッグサイト)

'10画像センシング展  
2010年6月9日～11日(パシフィコ横浜)

組み込みシステム開発技術展



画像センシング展



## 株式の状況 (2010年9月30日現在)

|          |             |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 23,500,000株 |
| 株式の種類    | 普通株式        |
| 発行済株式の総数 | 8,064,542株  |
| 株主数      | 1,571名      |
| 単元株式数    | 100株        |

## 株主メモ

|        |                   |         |  |
|--------|-------------------|---------|--|
| 事業年度   | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |         |  |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催            |         |  |
| 基準日    | 定時株主総会の議決権        | 毎年3月31日 |  |
|        | 期末配当金             | 毎年3月31日 |  |
|        | 中間配当金             | 毎年9月30日 |  |

## 大株主 (上位 10 名)

| 株主名   | 持株数        |
|---|------------|
| 株式会社ニコン   | 1,293,400株 |
| エスエフピー バリュースタディーズ リアライゼーション<br>マスター ファンド                | 1,250,600株 |
| 御船 滋  | 365,900株   |
| ジェイビー モルガン クリアリング コープ セク                                | 289,500株   |
| 奥村龍昭  | 237,000株   |
| ユービーエス エージー ロンドン アカウント アイ<br>ビービー セグリゲイテッド クライアント アカウント | 236,800株   |
| アパールグループ社員持株会   | 227,395株   |
| 嶋村 清  | 170,000株   |
| 株式会社アクセル  | 160,000株   |
| 奥村秀樹  | 137,000株   |

## 当社の IR に関して

当社は、投資家の皆様に、広く当社をご理解いただくため、適切な情報開示に努め、さらにIR活動の充実を目指しております。

株主様をはじめ個人投資家の皆様には、当社ウェブサイト等にて工場見学会、決算説明会の開催をお知らせし当社及び当社製品についてのご理解を深めていただくことを心掛けております。

またアナリスト、機関投資家向け決算説明会を年2回定期的に開催し当社の経営状況について経営者より直接ご説明をさせていただいております。

個人投資家向け説明会



## 決算説明会、会社説明会 (工場見学会)

|             |   |
|-------------|---|
| 2010年5月20日  | アナリスト及び個人投資家向け2010年3月期決算説明会<br>開催：大手町サンケイプラザ      |
| 2010年9月16日  | 日本証券アナリスト協会主催個人投資家向け会社説明会参加                       |
| 2010年11月18日 | アナリスト及び個人投資家向け2011年3月期第2四半期<br>決算説明会開催：大手町サンケイプラザ |
| 2011年2月中旬   | 厚木事業所工場見学会 (業績説明会) 開催 (予定)                        |

|       |  |      |
|-------|--|------|
| 商号    | 株式会社アバールデータ  |      |
| 資本金   | 23億5,409万円   |      |
| 設立年月日 | 1959年(昭和34年)8月   |      |
| 社員数   | 175名(2010年9月30日現在)   |      |
| 事業内容  | 一般通信機器の製造販売、工業用計測器並びに工業用制御装置の製造販売、物理、化学、医学用等の電子装置の製造販売、その他の各種電子応用装置の製造販売 |      |
| 役員    | 代表取締役社長 嶋村 清   |      |
|       | 取締役  | 広光 勲 |
|       | 取締役  | 神子芳弘 |
|       | 取締役  | 仲山典邦 |
|       | 取締役  | 菊地 豊 |
|       | 取締役  | 池田達哉 |
|       | 取締役  | 河合芳道 |
|       | 常勤監査役  | 三国 悟 |
|       | 監査役  | 金子健紀 |
|       | 監査役  | 橋本照夫 |



アバールデータの経営理念、A'VALue<sup>+</sup>（エー・バリュー・プラス）とは、それぞれ以下の頭文字を、加えて生まれた造語です。A'VAL:「Available:有用性」から付けられた当社の社名AVAL。そのうえA'には:技術の「Advance:先進性」、その品質の「Assure:保証」、サービスや対応の「Agile:早さ」など様々な「価値」の意味を表しています。u:私たちの会社の理念「顧客を第一に考える」の姿勢(u[user oriented]) e:「エレクトロニクス」に代表される当社の技術(e[e-solution])。そして+:にはA'VALueを進める推進力として社員一人一人が持っている潜在力の一つのベクトルにあわせて働きかけ加速させ、いつでもお客様に必要な価値を追及し提供する決意を表しています。

---

|       |   |  |
|-------|---|--|
| 商号    | 株式会社アバール長崎  |  |
| 資本金   | 1億3,400万円   |  |
| 設立年月日 | 1987年(昭和62年)11月   |  |
| 社員数   | 124名(2010年9月30日現在)  |  |
| 事業内容  | 電子機器の開発・設計・製造・販売(CTI関連機器、半導体製造装置、画像処理機器、計測制御機器、通信関連機器、カスタム設計FAコンピュータの研究開発・設計・製造・販売) |  |
| 代表者   | 代表取締役社長 川浪義光  |  |

#### 株式事務のご案内

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
同事務取扱所 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）  
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店  
および全国各支店並びに日本証券代行株式会  
社の本店および全国各支店で行っております。

#### 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

#### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

#### 公告方法

電子公告の方法により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

当社の Web サイトアドレス <http://www.avaldata.co.jp>

#### 株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

#### 配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

## 株式会社アバールデータ

〒194-0023 東京都町田市旭町1-25-10  
TEL042-732-1000 FAX042-732-1022  
<http://www.avaldata.co.jp>



本紙は環境保護のため古紙配合率100%の再生紙と食物性大豆油インクを使用しています。

**JASDAQ**

証券コード 6918

K10112K1